

ブナの巨樹を訪ねて。南会津は良いな～



2020年1月12日～13日

星野、吉澤、佐藤 耕

12日：くもり時々晴れ間

13日：吹雪、のちに晴れ

ブナが広がる静かな雪山を歩きたいな～。向かうは大好きな南会津。

メンバーからは「雪あるの～？」との半信半疑の声があがっていたが、山の上には絶対にあります！と力強く返すが、近づいても雪が少ない…。若干不安になるが、そこに雪は必ずある！

ところがなんたること！耕至さんが水を歩荷しようとしているではないか。即座に捨ててもらおう。小立岩集落に車を止めさせて頂いた区長さんは、猟銃を片手に現れ、撃たれるかと思ひ驚いたがとても興味深いお話を聞かせて頂いた。が、狩猟もせずに、何しに登るんだ？と大変不思議がっておられました。人それぞれですね。

取り付きは全く雪が無い…。藪の急斜面を登り、傾斜が落ち着いてくる頃、やっと雪が現れた。とうとう一面の銀世界となり、スノーシューの出番が来た。ほれ、見たことか！

尾根が広くなってくると、待望の立派なブナがそこかしこに。幹回りの太い立派なブナを見つけては足を止める。迷彩柄の木肌は芸術的で美しい。

巨樹が増えてくると、古い切り付けがあちこちに見られる。昔の人達もやはり何かを残したかったのかなあ。現代のインスタみたいなものかしら。

尾根が細くなってくると、藪が煩わしい。みんな藪にテンション下がりが気味で早く幕にしたい気持ちが隠せなくなってきたし、ブナ森の平らで素敵な台地に出会ってしまったので、幕とした。

大きなブナの下にテントを張らせてもらった。夕飯もおつまみも、充実で大満足。

ホ  
ケ  
ン  
ノ  
イ  
ノ  
コ  
ム  
ル



1月13日(日)

やはり、時間通りには起きられず、だいぶ寝坊をしてしまったが、今日は山頂ピストンだからまあ良いか。しかし、外は何だか吹雪いている様だ。逆境に弱い我々、モチベーションをあげてくれる人がいない…。しかし、リーダーですので、あげます。

風雪の中、黙々と山頂を目指す。すると、だんだんと雲が流れ、青空が見えてきた。

きた～！それからは、先ほどの吹雪が嘘の様に晴れ渡り、視界がひらけた。

ね～！登って良かったでしょう！山毛櫛沢山ピークまで、フカフカの雪を蹴散らし、真っ白の三岩や窓明山を正面に見ながらご機嫌に歩く。南会津って素晴らしい。大好きです。

ピークからは、ポコポコした南会津らしい優しい形の山々が連なる。ああ、繋げたい。

どこまでも歩いて見たい。そこにどんな景色が見えるのだろう。

ワクワクしながら山頂を後にし、来た道を戻り小立岩集落へ降りて来た。もう区長さんの姿は見えなかったが、車がポツンと待っていてくれた。

ブナが根開きする残雪期にまた南会津を訪れたい。

